

居住地から見た高齢者の交通行動に関する一考察

宇都宮大学 学生 ○谷田部 雅人
宇都宮大学 フェロー 古池 弘隆
宇都宮大学 正会員 森本 章倫

1. はじめに

近年の日本における過度な自動車依存は、都市部に慢性的な渋滞を引き起こし、路線バス等の運行に乱れを生じさせている。この様な流れを解消する為、環境問題や少子高齢化社会への対策を含めて、安心且つ便利な交通環境を整える事が求められている。そこで、宇都宮市では、新たな基幹公共交通としてLRT（Light Rail Transit：次世代型路面電車システム）の導入を検討しているが¹⁾、高齢者の視点からの需要予測は不足している。

高齢者交通は、一般の通勤・通学の様な交通とは異なり「時間価値」の概念が不明確で、制約条件が多岐に渡る。その為、現実の市場において、様々な生活行動に派生して、交通需要が顕在化するわけではなく、身体的な制約や低水準の公共サービス、居住形態により抑制され潜在化する傾向にある。

既存研究において、水野ら²⁾は、交通手段の欠如による潜在化した外出行動が、LRT 導入により外出機会を増やす効果を生み、潜在需要の顕在化に繋がると予測した。しかし、LRT 導入による高齢者の外出意識・行動に関して、LRT 予定路線を考慮したアンケート等が取られておらず、居住地による外出意識・行動の差を明確に捉えることが出来なかった。

そこで本研究では、居住地ごとの外出意識・行動・需要がどの様に違うのかを把握し、高齢者にどのようなモビリティが求められているか考察する。

2. 外出動向調査

本研究で対象とする高齢者は、宇都宮市在住の65歳以上で、外出時に介助が不要な方とした。生活行動と交通との関連性を把握するデータの収集を目的とし、外出動向調査(ヒアリング形式)を実施した。調査概要を表1に示す。また、老人福祉センターは高齢者を主

キーワード 高齢者、交通行動、居住地

な対象とした、日常の生活相談や健康の維持増進、趣味、教養の向上を図る事を目的とした施設で、来訪手段は、利用者が自力で来るか、送迎バスがある。

表1：外出動向調査の概要

調査日		2005年11月7日～15日	
実施場所		老人福祉センター（4ヶ所）	
有効解答部数		203部	
質問項目	個人属性	住所、性別、年齢、職業、世帯構成、車	
	外出状況	目的、所在地、移動手段、頻度、満足度	
	LRT関連	都心来訪現況、乗り継ぎ・利用意識	

3. 高齢者の日常の外出行動

(1) 目的別外出者数と頻度と移動手段

日常の目的別外出者数(図1)を見ると、医療、買物、その他私事(趣味・教養)目的の外出者数は、サンプルの7割以上と多いが、福祉(運動・入浴・マ

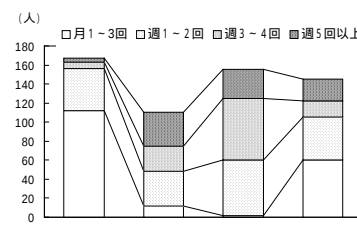


図1：目的別外出者数と頻度
ツサージ)目的は5割程度と少ない。外出頻度を見ると、買物、福祉目的は週に1回は外出している方が多い。一方、医療目的の外出頻度は低い。

また、目的別手段分担率は、自動車保有者の大半(保有者96人中、8割以上)が自動車を用いており非保有者(図2)は徒歩、自転車の割合が多く、買物目的では特にその傾向が強い。一方、買物以外の目的では、路線バス、送迎バスの割合が高くなっている。

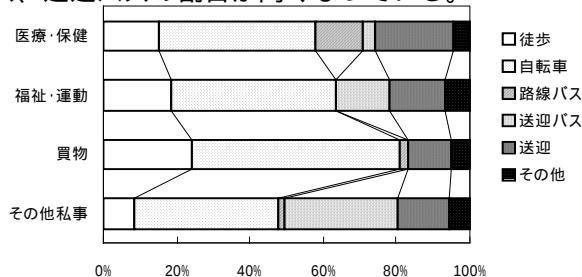


図2：目的別手段分担率(自動車非保有者)

(2) 公共交通満足度

公共交通満足度(5段階評価)の町別平均値とバス・鉄道路線をGISで重ね合わせたものを図3に示す。非常に満足・やや満足となった地域を満足地域、非常に不満・やや不満となった地域を不満足地域とする。満足地域は主要バス路線周辺に分布し、不満足地域は郊外部や主要バス路線が走っていない地域に多い。

また不満に挙げる理由として、「運行本数が少ない」が最も多く、「バス停が遠い」や「路線が無い」、等も挙げられた。こうした地域格差の是正が求められる。

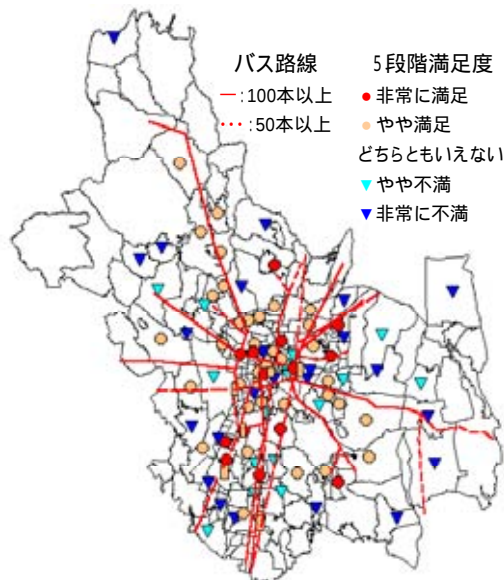


図3：公共交通満足度

(3) 外出先の地域差

各老人福祉センターの利用者の住所(町別)をGISで見ると(図4)、福祉・健康目的は施設周辺に多くの利用者が集中し、その他私事目的では遠方からの利用も多い。また、送迎バス利用者は、全員が自動車を持っておらず、施設以外の外出には自転車、徒歩を用いている方が多い。送迎バス利用者の内、(2)の公共交通不満足地域に住む方の割合は送迎バス利用者の半数に及ぶ(表2)。この様に、不満足地域にまで運行する送迎バスは、自由に選択出来る移動手段が少ない方の重要な移動手段と考えられる。

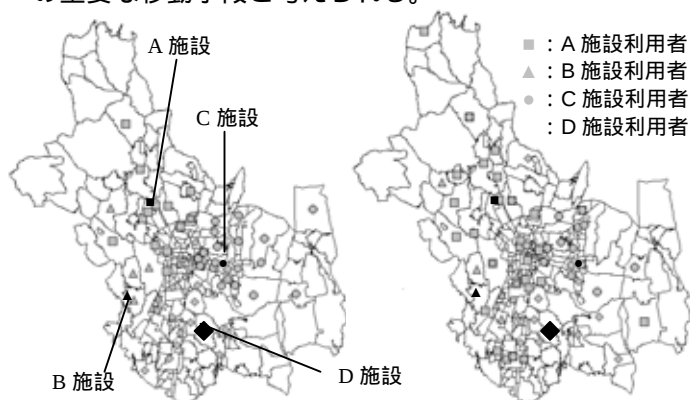


図4：利用者の分布(左図：福祉 右図：その他私事)

表2：公共交通不満足地域の送迎バス利用者

利用目的	施設総利用者	送迎バス利用者	不満足地域の送迎バス利用者
福祉・健康	89人	9人	6人
その他私事	119人	23人	10人

4. 高齢者の都心来訪とLRT利用

現在都心には、サンプルの約4割が主に買物目的で来訪しており、都心の印象として、「寂れている」、「アクセスし難い」、「郊外の大型店舗で十分」、「都心部だからという魅力に欠け、高齢者のゆっくり出来る所がない」等が多く挙げられた。また、LRT導入による都心への外出意識の変化に関して、現在都心に外出していない方の約7割は変化が無い。分散分析より、公共交通満足度が低いとLRTを利用して外出する意識が小さい傾向ある(図5)。都心来訪とLRT利用に関しても、公共交通サービス水準の格差是正が求められる。

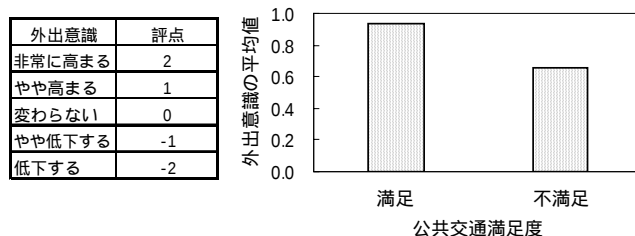


図5：公共交通満足度と外出意識の高まり

5. おわりに

本研究では、公共交通サービス水準の地域格差の存在は、公共交通不満足地域に住む高齢者が外出する際の移動手段の選択範囲を狭める。これによって、生活の質の低下に繋がる結果となり、LRT導入においても、都心への外出意識の向上の妨げになる事が分かった。

高齢者の外出機会促進とLRT利用の為には、どの地域でも利用し易い「魚の骨のような公共交通ネットワーク」の構築が求められる。また、憩いの場や福祉・教養施設の整備等、高齢者にとっても魅力ある都心のまちづくりが求められる。今後の課題としては、今回取得できなかった地域のサンプル収集や、具体的な公共交通ネットワークの提案・検討が考えられる。

参考文献

- 1) 栃木県：「新交通システム策定報告書」、2003
- 2) 水野絵夢・森本章倫・古池弘隆：「LRT導入時における高齢者・障害者の交通行動に関する一考察」、第32回土木学会関東支部技術研究発表会講演概要集、pp.65-66, 2005